←■火鉢

江戸から明治･大正時代まで使われた暖房器具。灰を入れ炭火をもやして暖をとる。木製・金属製・陶製などがある。簡単な調理もできるよう工夫されていた。

■長持 ↑

家の娘が結婚して嫁ぐ際に持参する荷物入れ。また嫁入りの際に必要な道具を入れる箱。移動しやすいように底部に車輪をつけている。また、嫁入りで長持を運ぶ際の祝い歌は「長持歌」として伝承された。明治・大正時代以降になると、長持の役割はたんすに替わられた。

■わらじ編み↑

前方にある 3 本の木に藁を引っかけて編んでいく。居間の囲炉裏の近くで行っていた作業が、どこの部屋でもできるようにこうした道具が作られた。

■薬箱→

チェックリストがあり、豊富にそろっていたことがわかる。

←■網代笠

組み笠の一種。経木(きょうぎ)を網代に組んでつくる笠で、平組みと綾組みの 2 種がある。古く大和国の大峰の修験者がもっぱら着装したので、ギョウジャガサ、キセンガサとも呼ばれた。形は円錐形で、現在は、軽快な日よけ笠、雨よけ笠として、主に農山村で男子が着用している。タケの網代笠は半球形につくられ、これも古くから僧尼に用いられていた。